



風景の句読点

第18回

麻釜（おがま）熱湯湧泉

日本工営株式会社／事業戦略本部／技術戦略室
永吉 洋之 NAGAYOSHI Hiroyuki (会誌編集専門委員)



野沢温泉街

湯けむり漂うレトロな街並み
(長野県下高井郡野沢温泉村)

湯けむりに誘われて

山々に囲まれてゆったりとした雰囲気の中で、街に点在している外湯をめぐって、飲食を楽しみ、心身ともにリフレッシュできるのが野沢温泉街の醍醐味である。温泉街の至る所から立ち上る湯けむりのなかを浴衣姿で行き交う人々と木造の湯屋建築が織りなす風景には、独特の風情がある。そんな野沢温泉街の魅力を紹介したい。

「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたくなるような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



野沢温泉大湯

湯屋建築と石畳

野沢温泉には、およそ30の源泉があり、13の外湯（共同浴場）と2つの日帰り入浴施設がある。いずれも天然温泉100%かけ流しの施設で、新鮮な温泉を堪能できる。それぞれの外湯は、周辺の住民が「湯仲間」という制度を作って、当番制で管理、維持されており、清潔感がある。なかでも、日帰り入浴施設の「ふるさとの湯」は、昨年（2024年）リニューアルされ、筆者が訪れた際にはまだ木材の香りが漂っており、新築を好む方にはおすすめの施設である。一方、温泉街の中心にある「大湯」は、江戸時代の建築様式を残した立派な木造湯屋建築であるが、周囲の石畳や浴衣姿の人々との調和が見事である。「大湯」の窓からは、夜になると温かい光が漏れてきて、より一層の美観が呼び起こされる。

憩いと調理の風景

温泉街の上部に位置する「麻釜熱湯湧泉」は、地域住民の憩いの場であり、調理の場でもある。筆者が麻釜を訪れた際には、湧泉で野菜や卵をゆでている住民の方を見かけ、豊富な温泉資源とともにある暮らしの一部を垣間見た。麻釜には、大釜、ゆで釜、丸釜、竹のし釜、下釜と呼ばれる5つの釜があり、約90度の熱湯が湧いている大釜やゆで釜では野菜や山菜をゆで、少しだけ温度が低い、約80度の竹のし釜では、主に卵をゆでて温泉卵にするそうである。麻釜を利用できるのは、組合に所属している村民のみとなっているが、観光客であっても、麻釜でゆでられた野菜や卵をその場で味わうことができる。

「うるおいのある美しいまちづくり」条例

野沢温泉は言わずと知れたスノーリゾート地であり、近年のインバウンド（訪日外国人）や外国人移住者の増加による影響もあって、温泉街には比較的新しいカフェやバーが立ち並ぶ。筆者が立ち寄った大湯の近くにあるバーでは、地ビールが提供されており、湯上がりの一杯は格別である。バーの外装は周囲との調和を意識した落ち着いた装いで、かつ店内は木目調の内装となっており、温泉街の街並みにおける違和感はない。野沢温泉村では、「野沢温泉村うるおいのある美しいまちづくり条例」が施行され、屋外広告物が一部で規制されている一方で、「景観づくり基準」に適合した建築物・工作物には助成金が交付されることもあり、新旧文化の共存を図りながら、印象的な景観が形成されている。ぜひまた訪れてみたい温泉街である。

<参考資料>

- 1) 長野県の歴史散歩編集委員会編著 『長野県の歴史散歩』 2006
- 2) 「大人の遠足BOOK 自然を楽しむ温泉&ウォーキング関東周辺」 2016
- 3) 「エイムック3509 Discover Japan TRAVEL ニッポンの温泉」 2016
- 4) 野沢温泉観光協会編著 『野沢温泉これいっさつ』 2023
- 5) 野沢温泉マウンテンリゾート観光局HP <https://nozawakanko.jp/hotspring/>

<写真> 全て筆者